

教科	社会	単元名	これからの食料生産
----	----	-----	-----------

本時のねらい

日本の食料自給率における課題について、座標軸を使ってさまざまな解決策を比較することを通して、これからの食料生産のあり方について生産者と消費者のそれぞれの視点から考えることができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・発表者がまとめた資料を画面配信することにより、発表内容を理解しやすい環境を設定する。
- ・タブレット上で座標軸を作成することにより、発表された取り組みの価値を一人ひとりが比べながら聞くことができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット PC
- ・電子黒板
- ・授業支援ソフト（ロイロノート）
- ・Google ドキュメント

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○日本の食料自給率の現状を確認する。 ○めあて「積極的にすすみたい取り組みについて考えよう」	・授業で扱った統計資料をピラミッドチャートにまとめ、本時の授業のめあてをつかませる。
展開 (35分)	○各グループで、これからの日本での食料生産をよりよくする取り組みについて、調べたことを発表する。 (1)取り組みの概要 (2)その取り組みのよさ (3)課題 ○全ての発表を聞いた後に、「これからの日本の食料生産を考える上で、より積極的に薦めたいのはどの取り組みか」を班で話し合う。 ○自分の薦めたい取り組みとその理由について全体で交流する。	・3点について、プレゼンテーションアプリで端的にまとめさせる。 ・発表内容を電子黒板と児童のタブレットに画面配信し、発表内容を視覚的にも支援できるようにする。 ・それぞれの取り組みの名称が書かれたカードを座標軸上に配置し、「生産者視点」「消費者視点」の二軸で比べて、メリットやデメリットを考えさせる。友だちと話し合うことで考えが変わったら、座標軸内の取り組みカードを移動させる。 ・考えを発表する児童に、座標軸内のテキストを移動させたものを電子黒板で写しながら、取り組みの価値を比べ合う。
まとめ (5分)	○ふりかえりをする。	・日本の食料生産をよりよくする取り組みどしの価値を比べて考えことを記入し、自分の作った座標軸とともにロイロノートで提出させる。

1人1台端末を活用した活動の様子



ピラミッドチャートをもとに、これまでの学習で学んだことを振り返る場面



発表内容を聞いて、一人ひとりが自分の座標軸でよさを比べている場面



自分の座標軸を見せ合いながら、すすめていきたい取り組みを話し合う場面

児童生徒の反応や変容

伝えたい内容が分かる写真や資料を提示しながら発表させることにより、聞いている児童が内容を把握しやすく、発表後の話し合いをスムーズに行うことができた。また、他の発表を座標軸で比べながら聞くことで、その取り組みの価値を再考し、「消費者にとっては～できるのはいいけれど、生産者にとっては～」などと、新たな視点をもつことができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

発表内容を座標軸に表す活動により、発表を聞くだけでなくそれぞれの取り組みの価値を比べながら聞くことが可能になった。メリット・デメリットと考える評価軸は個人によって異なるため、座標軸に表し、なぜその場所に置いたのかなどの理由を交流することが重要であった。